

## 京都大学

### EAI とは・・・？

Equal-appearing intervals の略。等現間隔法。行動計量学の分野で、被験者の絶対的な態度を数値で測定するため、サーストンにより提唱された手法。評定によって得られる得点の中央値または平均値を態度尺度の得点とする。

### 1999 年度

学 習 者： 2 回生以上の京都大学学生（通常進学者と再履修者の混在するクラス）48 名  
学習期間： 通期  
使用教材： *College Lectures, People Talk*  
指導形態： 完全自習形式

### 2000 年度

学 習 者： 2 回生以上の京都大学学生（通常進学者と再履修者の混在するクラス）69 名  
学習期間： 通期  
使用教材： *TV-News, Movie Time 1, Movie Time 2*  
指導形態： 完全自習形式

### 2001 年度

学 習 者： 京都大学学生（再履修者のみ）113 名  
学習期間： 通期  
使用教材： *TV-News, Movie Time 1, Movie Time 2*  
指導形態： 完全自習形式

計画研究力班の研究分担者で英語班の総括補助者であった京都大学の水光雅則教授は、研究の開始当初から CALL への大きな期待を示して下さっていましたが、平成 10 年度と 11 年度のプロジェクトとしてメディア教育開発センター制作の CALL 教材が完成すると、千葉大学での試用と併行して京都大学でもその教材を試用していただき、アンケートによる評価を実践していただきました。

評価結果 (%)		
肯定	中立	否定

1) 英語の勉強になったと感じる	1999 年度	84	14	1
	2000 年度	78	17	5
	2001 年度	79	15	6
2) 普通の英語の勉強でもっとこの種の CD-ROM 教材を取り入れてほしい	1999 年度	83	14	4
	2000 年度	83	15	2
	2001 年度	74	18	8
3) 専門に必要な英語もこの方法で勉強してみたい	1999 年度	79	15	6
	2000 年度	74	18	8
	2001 年度	59	22	20

上記 3 年分のアンケート結果を見て、授業担当者の水光雅則教授は以下のように述べています。(京都大学総合人間学部 *MM News*, 2002 より)

登録者と最終的履修者の割合を観察して

『京大の授業で歩留まり 90.6% は異例の高さである。』( *MM News*, 2002, p.7 )

1999 年度, 2000 年度「英語の勉強になったと感じる」への学生の回答を見て

『少々のことでは満足したと言いたがらない京大生達の 8 割以上が満足したという結果を出す教材は他に知られていない。巻やクラスによっては 9 割が満足している。理系と文系がどの巻でも同じ満足度を得ているわけではないが、全体で不満足であったものは 3.3% しかいなかった。不満足者が 3.3% に過ぎなかったことは、にわかには信じがたいであろうが、この教材を少しでも視聴すると、誰でもうべなるかなと言うであろう。』( *MM News*, 2002, p.12 )

1999 年度, 2000 年度「普通の英語の勉強でもっとこの種の CD を使いたい」への学生の回答を見て

『筆者が今まで行ってきた普通の授業でこのアンケートを実施したいと思わない。筆者の従来の方でさらに勉強を続けたいと思わない者が 2.6% で、思う者が 83.0% になるとは想像できない。』( *MM News*, 2002, p.12 )

1999 年度 , 2000 年度 「 専門に必要な英語もこの方法で勉強してみたい 」 への学生の回答を見て :

『 77% が ESP もこれで勉強したいと答えている。 ... この教材がこれはこれで満足したがこれ以上は止めておこうというのではなく , いかにもっとこれで勉強したいと思わせる激励効果が高い優れた教材であるかを如実に示している。』 ( *MM News*, 2002, p.13 )

京都大学での 「 全学共通科目に対してのアンケート調査 」 ( 平成 6 年度 ) との比較で

『 一般に普通の外国語授業で満足する者が約 30% であるのに対して , 「 三ラウンド・システム 」 の CD-ROM 教材で満足するものは 81% なのである。一般に外国語の授業で不満足である者が同じ約 30% であるのに対して , 「 三ラウンド・システム 」 で不満足だった者は 3.3% に過ぎなかったのである。この数字と外国語を学ぶ動機を持っていない学生は約 18% であることを勘案すると , この教材は , 学習動機を持っていない者にも動機を与える効果を持っていることをも明白に示している。』 ( *MM News*, 2002, p.14 )

質問 1 ) への再履修学生の回答 ( 2001 年度 ) を見て

『 再履修者でもこのように英語の勉強になったと評する者が多いこの教材と方法はまさに特筆に価する。』 ( 京都大学における再履修者用 CALL 2001 の評価 中間報告 , p.10 )

質問 2 ) への再履修者の回答 ( 2001 年度 ) を見て

再履修者でも , この種の CD-ROM 教材をもっと使いたいとする者が 6 割もいる。この種の教材と学習方法を学生も支持していると受け止めることができる。』 ( 京都大学における再履修者用 CALL 2001 の評価 中間報告 , p.10 )

質問 1 ) , 2 ) への再履修学生の回答 ( 2001 年度 ) を京都大学での 「 全学共通科目に対してのアンケート調査 」 ( 平成 6 年度 ) と比較して

『 優劣は明白である。一般に外国語の授業には不満足である学生は 30% であるのに対して , この CALL クラスでは , わずか 8% である。一般に外国語の授業に満足する者は 30% であるのに対して , このクラスでは 71% である。全員必須の英語でしかも再履修者を対象にしたクラスで , これ以上の成果は望みようもなからう。』 ( 京都大学における再履修者用 CALL 2001 の評価 中間報告 , p.12 )